

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月26日

協議会名:長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)ながすタクシー	長洲町予約型タクシー(きんぎょタクシー)の運行(長洲町内全域及び荒尾市・玉名市の特定施設)	長洲・荒尾地域内フィーダー系統確保維持計画どおり長洲町予約型乗合タクシー(きんぎょタクシー)を運行した。また、令和3年4月から実施している玉名市への運行や、運転免許証返納をした高齢者への1年間の無料乗車券配布などを引き続き実施しており、日常生活に必要不可欠な移動手段の確保を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 利用者数の目標を20,000人/年としていたが、実績は19,901人/年となった。財政負担の実績は18,411千円となり、計画どおり20,000千円以内での運行ができた。	新型コロナウイルス感染症の影響で減少した利用者数がぎりぎり回復しきれず、利用者数増加の目標は達成できなかった。今後は、R5年度中に策定予定である「長洲町地域公共交通計画」に位置付ける各事業を展開することにより、きんぎょタクシーの利便性を更に高め、利用者数の増加を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月26日

協議会名:	長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	長洲町は、熊本県北西部に位置し、面積は19.44km ² 、人口は15,452人(令和5年12月末現在)の町である。快適な暮らしができる安心のあるまちづくりのためには、誰もが公共交通を利用して気軽に移動できる地域公共交通が必要不可欠である。その一環として、公共交通サービスを真に必要とする高齢者等の移動手段の確保を主たる目的とし、「病院や買い物等の日常生活に必要な移動手段を確保する」ことを目標に掲げ、地域間幹線系統を接続するフィーダー系統(デマンド型)を組み合わせることで、生活交通ネットワークの充実を進めているところである。

概要



【愛称】 きんぎょタクシー

金魚は、長洲町のシンボルであり、この予約型乗合タクシーが今後、長洲町のシンボルになるようにと町民の方が期待を込めて名付けた。

【運行主体】 有限会社 ながすタクシー

地域公共交通の活性化及び再生に向けて、長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会を立ち上げ、住民の移動ニーズを把握し、問題点を明らかにしたうえで、町内及び荒尾市を循環する民間バス路線への補助を廃止し、その財源をもとに平成23年10月からフルデマンド型の長洲町予約型乗合タクシー（きんぎょタクシー）を運行している。

きんぎょタクシーは、公共交通サービスを真に必要とする車を運転できない高齢者等を中心に、生活に必要不可欠な公共交通であるため、地域公共交通確保維持事業により、きんぎょタクシーを確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。

基礎データ

【人口】 15,452人
 【面積】 19.44平方キロメートル
 【高齢化率】 36.8%
 （令和5年12月末現在）

【補助対象の系統数】 1系統

【自治体負担額】 R1：12,007千円、R2：14,821千円
 R3：15,390千円、R4：18,411千円

【協議会開催数】 協議会2回

計画、目標(Plan)

【現況と課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度及び令和3年度に利用者が大きく減少したが、令和4年度にはコロナ禍前の水準の約95%まで回復した。利用者数の回復及び更なる増加を図るためにも、令和5年度中に「長洲町地域公共交通計画」を策定し、地域公共交通の適正な体制を構築する必要がある。

【目標】

- ・財政負担の維持・抑制に配慮し、運行効率化を図ることで、利用者の利便性向上を目指す。（財政負担額20,000千円以内で運行を維持）
- ・地域公共交通の利便性向上による利用者の増加を目指す。（R5までに：20,000人）

生活交通確保維持改善計画等の取組み(Do)

長洲・荒尾地域内フィーダー系統確保維持計画どおり長洲町予約型乗合タクシー（きんぎょタクシー）を運行した。また、令和3年4月から実施している玉名市への運行や、運転免許証返納をした高齢者への1年間の無料乗車券配布などを引き続き実施しており、日常生活に必要な不可欠な移動手段の確保を図った。

実施状況、目標の達成(Check)

地域公共交通の利便性向上による利用者の増加

【目標】 8,000人(H22) ⇒ 20,000人(R5)

【実績】 19,901人(R5)

財政負担の維持・抑制

【目標】 20,000千円以内での運行

【実績】 R1: 12,007千円、R2: 14,821千円、R3: 15,390千円、R4: 18,411千円

今後の課題、対応(Action)

新型コロナウイルス感染症の影響で減少した利用者数がぎりぎり回復しきれず、利用者数増加の目標は達成できなかった。今後は、R5年度中に策定予定である「長洲町地域公共交通計画」に位置付ける各事業を展開することにより、きんぎょタクシー利便性を更に高め、利用者数の増加を図る。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年3月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会	(有)ながすタクシー	長洲町予約型タクシー(きんぎょタクシー)の運行 (長洲町内全域及び荒尾市・玉名市の特定施設)	新型コロナウイルスの感染症対策に取り組みながら運行し、減少した利用客数は、徐々に回復の兆しを見せたが、新型コロナウイルスまん延以前の水準には至らなかった。また、運転免許返納者への無料乗車券交付制度等を活用しながら、利用促進を図った。	A	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が新型コロナウイルスまん延以前の水準に戻ってはいないが、引き続き感染症対策等に努め、利用実態を把握しながら、効率的な輸送サービスを検討していく。	評価の指標は、年間利用者数及び財政負担額。 目標の一部が未達成であるものの、未達成の年間利用者数についても前年度から増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響の中であることを踏まえれば、一定の評価ができると考えます。 引き続き利用者のニーズや利用実態を把握した上で、継続的な協議が進められることを期待します。	